



まえさわ小町
商店会 (東久留米市)

活用した事業

商店街リーダー実践力向上塾
商店街パワーアップ作戦



商店街の東端。ここから約300mのバス通り沿いに46軒の店が並ぶ。

公社で得た「人とのつながり」で
商店街と商店を盛り上げていく



商店街のシンボル、平成11年に商店会事務局の横井修さんに設置した装飾街路灯。



創立50周年のタイミングで世代交代し
柔軟な取組で活性化を図る商店会

昭和40年代に建設された滝山団地の東側バス通りに誕生した「滝山東商店会」は、平成19年に「まえさわ小町商店会」と改名。さらに、設立50周年のタイミングで役員を若手にバトンタッチし、記念誌作りで奮闘した3人の女性がPRユニット「こまちーズ」として幅広く情報発信するなど、柔軟で積極的な活性化の取組を行ってきた。その中心人物が、横井修さんだ。

支援で得た人とのつながりで
貴重な知見・経験を得る

横井さんは以前から、公社の『商店街リーダー実践力向上塾』などに参加して、街の活性化策を模索してきた。なかでも商店主が講師となって地域交流を図る「まちゼミ」というイベントに興味を持ち、見よう見まねで自分たちで開催。そして、先駆者の話を聞きたいと考え、公社の『商店街パワーアップ作戦』を利用して「まちゼミ」開催に関する知識を深めていった。専門家とのつながりで「全国まちゼミサミット」「首都圏まちゼミ交流会」などへも参加するなど、飛躍的に活動の場



今年の「まちゼミ」は申し込み初日に満席になった講座も。



[上] yukoさんの雑貨とお昼ごはんの店。
[下] yukinoさんのベーカリー。



kyokoさんの寝具店の入り口。「こまちーズ」に会いに来る人も。

も広がったのが大きな成果。商店会の視野が広がった。

インボイス制度導入に際しては公社の専門家に会員に向けて商店目線で講義してもらった。「こまちーズ」のkyokoさんは「資料だけではわかりにくいことも専門家から聞くと理解しやすかった」、yukoさんは「商店会の中では知り得ない情報に触れる良い機会」と感想を持ったそうだ。また、横井さんはブティック店主から「新しいことに挑戦したい」と相談を受け、公社事業を紹介。店主は専門家の支援でSNSを始めた。今後はこのように個別の店にも公社の支援を広げることで、商店会全体を盛り上げようと考えている。

面白がってやっていることがお客様に伝わり
商店が「良い感じ」に変わってきた

yukinoさんは「無理はしないで店舗と家庭を最優先に、ゆる〜く商店会活動を続けています」と言うが、皆が集まると「あれやりたい！これやりたい！」と次々に夢やアイデアが湧いてくるそうだ。「5年前には想像もつかなかったような、良い感じになっています。内部で面白がっていると、周囲もお客様も“まえこま”って面白いなと感じるのは」と横井さん。現在の商店会加入率は100%。団地内からの来客に加えて、近隣や遠方からの若い世代の来客も着実に増えている。令和5年開催の第18回東京商店街グランプリでは準グランプリを受賞し、商店会はますます活気づいている。

東久留米市前沢4丁目、5丁目
TEL.090-3808-6224 (事務局 横井)
<https://maecoma.com/>